

トレーニングBOOK

**誰でもわかる
Windows7**

Attain

トレーニングBOOK 誰でもわかるWindows 7

この教材では、「Windows 7 Home Premium」を元に、その基本機能やマルチメディア機能などについて解説します。Windows 7では、動作が軽快になり、Windowsタッチを使って指で直感的に操作が行えるなど、さらに使いやすくなりました。良く使用するドキュメントや画像、Webサイトなどに素早くアクセスできるジャンプリストの機能や、開いたウィンドウをスクリーンの端に移動するだけでスナップしサイズ変更が出来る「スナップ機能」、ウィンドウをクリックしてマウスをシェイクすると、他のウィンドウがタスクバーに格納される「エアロシェイク」などユニークな機能があります。マルチメディアの機能を楽しみたい場合は、「Windows Liveおすすめパック」をダウンロードしましょう。「Windows Liveおすすめパック」には、チャットを楽しむための「Messenger」や、電子メールを利用するための「メール」、写真を楽しむための「フォトギャラリー」、そして、ブログを編集するための「writer」などのソフトウェアがあります。パソコンを使う楽しさをより多く実感することが出来るでしょう。この教材では、Windows 7の使い方や楽しさを分かりやすく解説していきます。

トレーニングBOOK
誰でもわかるWindows 7

contents

CHAPTER

01

Windows 7の基本操作

| | |
|--------------------|----|
| Windows 7のデスクトップ操作 | 6 |
| スタートメニューの操作 | 12 |
| ファイルとフォルダーの操作 | 16 |

CHAPTER

02

インターネット機能の利用

| | |
|----------------------------|----|
| Internet Explorer 8 | 25 |
| Windows Live メール | 29 |
| Windows Live Writer でブログ編集 | 37 |

CHAPTER

03

マルチメディア機能の利用

| | |
|---------------------------------|----|
| Windows Media PlayerでオリジナルCDを作る | 41 |
| Windows Live おすすめパック | 45 |
| Windows Live フォトギャラリー | 48 |
| Windows Live ムービーメーカー | 53 |

CHAPTER

04

Windows 7の設定

| | |
|---------------------|----|
| プリンターの設定 | 57 |
| デスクトップのカスタマイズ | 59 |
| ユーザーの追加と制限の設定 | 61 |
| アクションセンターでセキュリティの確認 | 65 |

CHAPTER

01

Windows 7の基本操作

第一章では、Windows 7 の基本操作について学習します。

Windows 7 のデスクトップ操作

■デスクトップ

Windows 7 を起動してみましょう。この画面は、Windows 7 を起動した直後の画面です。このような作業をする画面全体のことを「デスクトップ」と呼んでいます。



デスクトップには様々な「アイコン」や「ボタン」「ウィンドウ」を表示して作業を行います。ご覧の画面には、左上に「ごみ箱」のアイコンがあります。

このような絵柄により、Windows の機能やその他のソフトを起動する役割を表したものを「アイコン」と呼びます。



■スタートボタン

左下には「スタートボタン」があります。

このスタートボタンをクリックすると、スタートメニューが開き、Windows 7 の各種の機能を利用することができます。

デスクトップ上でクリックすると、スタートメニューを閉じることができます。



■タスクバー

スタートボタンのあるバーは、「タスクバー」と言います。

良く利用するソフトや作業中のウィンドウをこのバーに格納したり、表示したりできます。

この画面は、インストールを行った直後の画面ですので3つのボタンが登録されています。

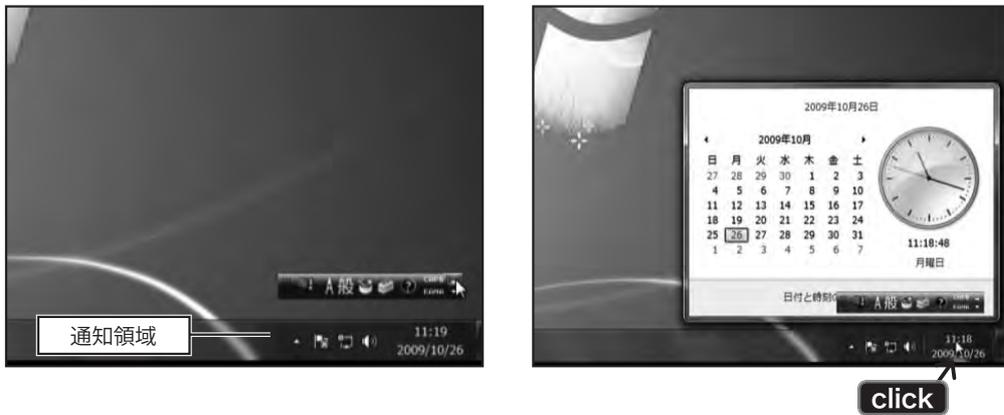
インターネットの Web ページを楽しむための「Internet Explorer」、ファイルやフォルダーを表示し利用するための「Explorer」、マルチメディア機能を楽しむための「Windows Media Player」です。これらはクリックするだけで、素早く起動し利用することができます。



■通知領域

タスクバー右側には、「通知領域」という部分があります。

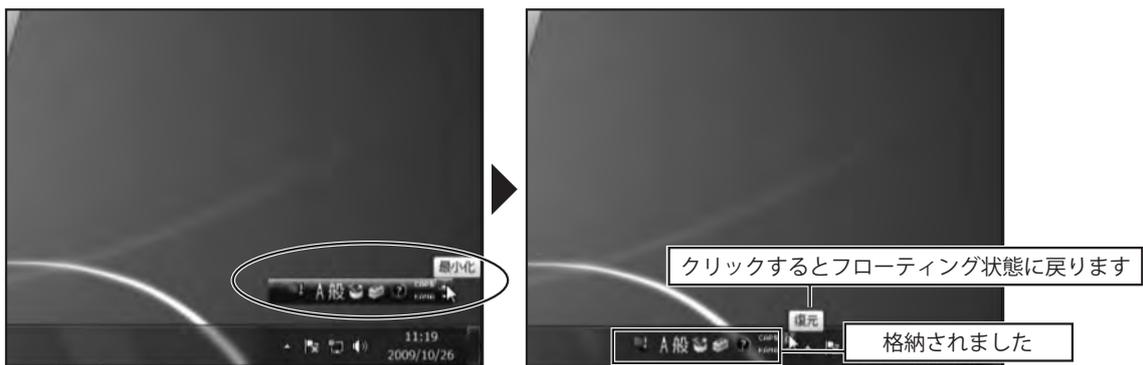
この通知領域には、現在の Windows 7 の状態や日付、時刻などが表示されます。通知領域に表示されているアイコンや領域をクリックして、その設定画面を開くこともできます。



■言語バー

こちらにあるのは、「言語バー」で、日本語入力システムの機能を利用するためのバーです。

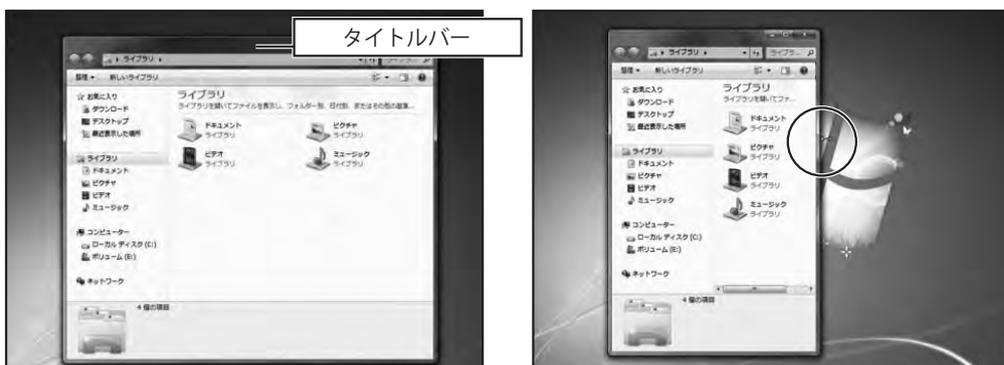
「最小化」をクリックするとタスクバーに格納することができ、「復元」をクリックすることで元のフローティング状態に戻すことができます。



■ウィンドウ

デスクトップには「ウィンドウ」を表示し、利用します。

ウィンドウは「タイトルバー」をドラッグすることで位置を変更でき、境界をドラッグすることでサイズを自由に変えることができます。



■ウィンドウのスナップ機能

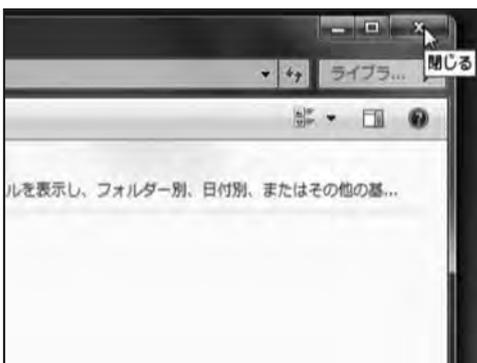
Windows 7 では、「スナップ機能」が利用できます。

タイトルバーをドラッグしてウィンドウの端に合わせてみるとスナップし、デスクトップを無駄なく利用できます。再びタイトルバーをドラッグするとスナップを解除できます。



■ウィンドウを閉じる

右上の赤い「閉じる」ボタンをクリックすると、ウィンドウを閉じることができます。



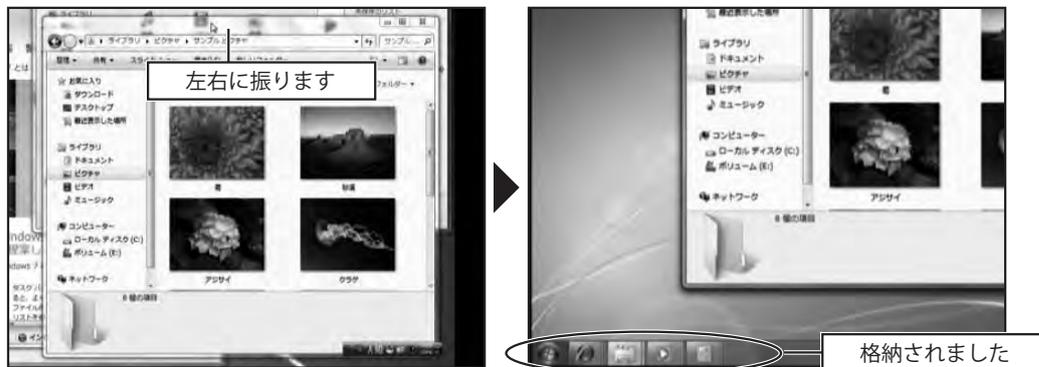
■エアロシェイク

パソコンで作業を行っているとき、ご覧のように多くのウィンドウやプログラムが開いた状態になってしまうことがあります。



そのようなときは、「エアロシェイク」を使ってみましょう。

目的のウィンドウのタイトルバーをクリックしてそのまま左右に軽く振ると、その他のウィンドウはすべてタスクバーに格納されます。ユニークで、便利な機能です。



タスクバーに格納されたウィンドウはボタンとして表示されます。

ボタンにマウスカーソルを合わせると、ポップアップでサムネイルプレビューが表示されますので、どのようなウィンドウやプログラムが格納されているのかが一目でわかります。



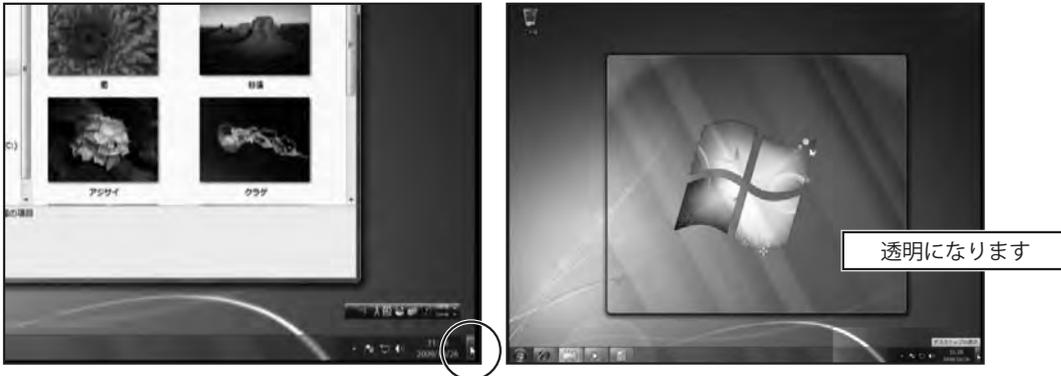
サムネイルにマウスカーソルを合わせると、デスクトップの元の位置に表示させることができます。



■エアロプレビュー機能

タスクバーの右端にマウスカーソルを合わせます。

すると「エアロプレビュー機能」により、開いているウィンドウやプログラムが透明になり、背面のデスクトップが透過して見えるようになります。



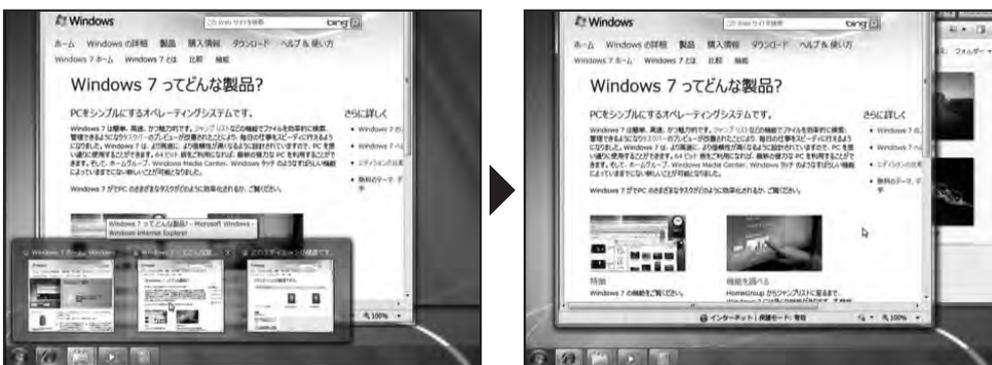
■ Internet Explorer のサムネイルプレビュー

こちらの Internet Explorer のボタンにマウスカーソルを合わせると、このように複数のサムネイルプレビューが表示されます。タブ形式を採用した Internet Explorer で開かれている複数の Web ページのすべてのサムネイルをプレビューすることができます。



その他のサムネイルプレビューと同様に、サムネイルにマウスカーソルを合わせるだけで、それぞれのページをデスクトップに表示させることができます。

そして、サムネイルをクリックすると、そのウィンドウが実際に開きます。



■ Windows フリップ 3D

「Windows フリップ 3D」も試してみましょう。

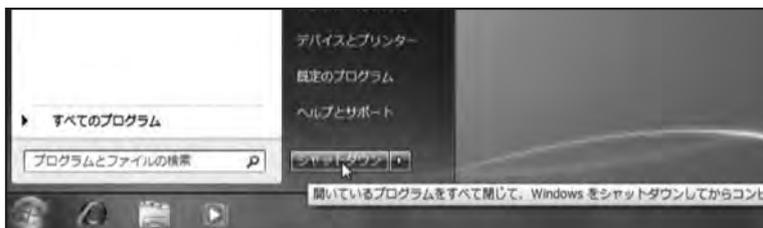
[Windows] キーを押しながら [タブ] キーを押すと、起動中のウィンドウやプログラムが 3D で表示されます。[Windows] キーを押したまま [タブ] キーを繰り返して押すことで、ウィンドウを切り替える動作が 3D アニメーションとして表示されます。



スタートメニューの操作

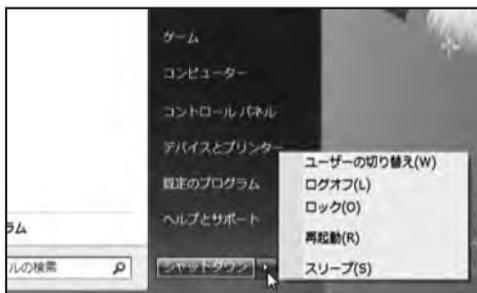
■ Windows 7 を終了する

Windows 7 を終了する時は、スタートメニューから行います。スタートボタンをクリックして、スタートメニューを開き、右側の「シャットダウン」ボタンをクリックすることで Windows 7 を終了することができます。



また、「シャットダウン」ボタンの右側に、右向きの三角ボタンがありますのでこちらをクリック、あるいはポイントすると、メニューが表示されます。

「ユーザーの切り替え」「ログオフ」「ロック」「再起動」「スリープ」など、現在の Windows 7 の利用を停止するときに利用するいくつかの処理を選ぶことができます。



■スタートメニュー

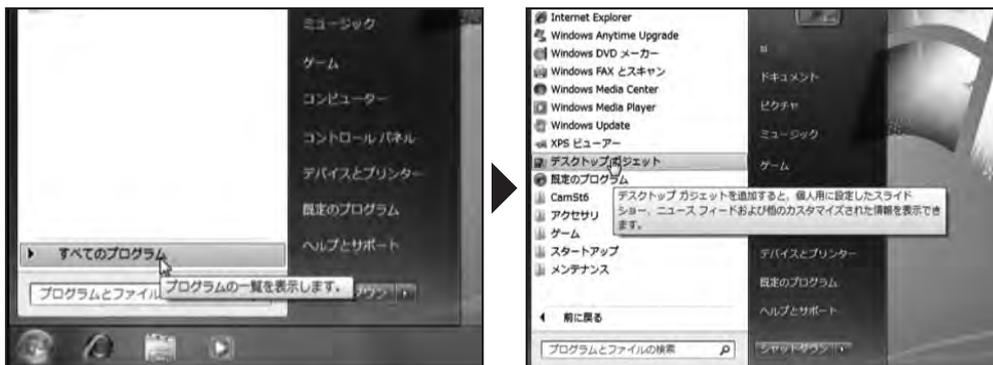
スタートメニューは左側の白い背景の部分と、右側の色のついた背景の部分に分かれています。



- ・左側の白い背景の部分では、利用するソフトを起動することが出来たり、何かのファイルやフォルダーなどを検索したりすることができます。
- ・右側では、おもに Windows 7 の機能を設定したり、フォルダーを開いたりする時に利用します。

デスクトップガジェット

「すべてのプログラム」にマウスカーソルを合わせると、隠れていたプログラムが表示され、アクセスすることができます。こちらの「デスクトップガジェット」をクリックしてみましょう。



すると、デスクトップガジェットを追加するためのプログラムが起動しました。

「時計」をダブルクリックすると、デスクトップに時計のガジェットが追加されます。

このようにデスクトップに表示し、ちょっとした機能を提供する小さなプログラムのことを「ガジェット」と言います。



プログラムのウィンドウは閉じるボタンをクリックして閉じます。

ガジェットも終了しましょう。ガジェットにマウスカーソルを合わせると、右側に閉じるボタンが表示されますので、クリックして閉じます。

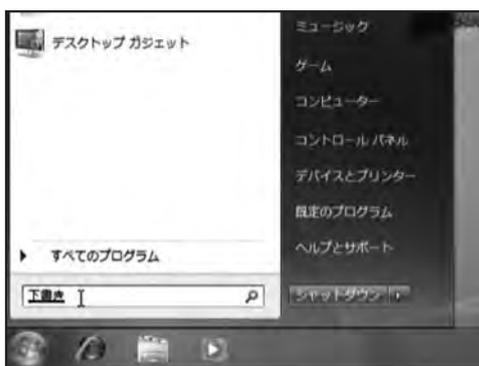


検索機能

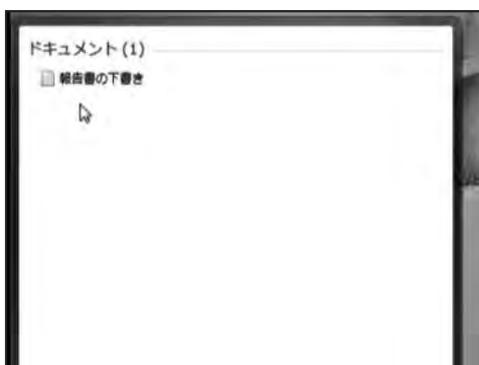
もう一度スタートメニューを表示します。

下側のテキストボックスでは、プログラムやファイルを検索することができます。

例えば「報告書の下書き」というファイルの保存した場所を忘れてしまった時など、素早く探し出すことができるのです。テキストボックスに、ファイル名の一部を入力します。

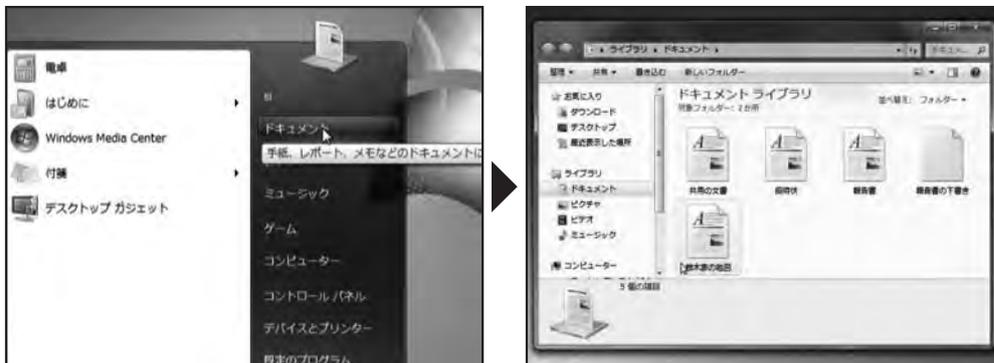


すると、このように該当するファイルが表示されますので、クリックするとすぐに開くことができます。



ドキュメント

「ドキュメント」をクリックすると、現在のユーザー用に用意された保存用のフォルダーを開くことができます。



コントロールパネル

「コントロールパネル」をクリックすると、Windows 7 を利用するための各種のカスタマイズをするためのウィンドウが開きます。このようにスタートメニューを利用することで、Windows 7 で行うすべての作業を 1 つのメニューから開始することが出来るのです。



ファイルとフォルダーの操作

ファイルやフォルダーの基本操作を見ていきましょう。

Windows ではすべての情報を「ファイル」という単位で扱います。

そして、それをまとめて保存するものが「フォルダー」です。Windows 7 にはあらかじめユーザー用の保存フォルダーが用意してあります。

「スタートメニュー」から、右上の個人用のフォルダーを選びます。

なお、ご覧の画面ではこのような名称になっていますが、こちらには利用中のユーザーの名前が表示されます。



クリックすると、このようなウィンドウが開きました。

現在のユーザーのために用意されたフォルダーの一覧があります。

「アドレス帳」「お気に入り」「ダウンロード」など、用途に応じてフォルダーが用意されています。

ユーザーは用途に合わせて、保存するフォルダーを選べばよいのです。



例

- ・ **マイドキュメント**
ワードを使って文書を作成した場合や、エクセルを使って計算のシートを作成した場合など
- ・ **マイピクチャ**
デジタルカメラで撮影した写真など
- ・ **マイビデオ**
撮影したビデオなど
- ・ **マイミュージック**
音楽

「マイドキュメント」の中にビデオのファイルを保存したり、「マイピクチャ」の中に、エクセルの計算シートを保存しても構いません。ただし、パソコンを長く使っていると保存するファイルの量が膨大になっていきますので、きちんと整理されていないと目的のファイルを探し出すのが困難です。

ですから、Windows 7 があらかじめ用意しているフォルダーに対して、ファイルの種類に応じて保存を仕分けておくとうい良いでしょう。

■ファイルの移動（「切り取り」と「貼り付け」）

「マイドキュメント」を開きましょう。ダブルクリックします。



「マイドキュメントフォルダー」が開きました。

ご覧の画面では、すでにこのようにファイルが保存してありますので、これらのファイルを整理してみましょう。

まず、ここに画像ファイルがありますので、こちらのファイルはマイピクチャフォルダーに移動しておきます。写真のファイルを選びます。



ツールバーから「整理」ボタンをクリックすると、選択したファイルに対して行えるメニューが開きます。「切り取り」を選びます。



写真のファイルが薄くなり、一時的に切り取られた状態になっていることを示します。



「マイピクチャ」フォルダーに移動します。ここでは、いったん元の個人用フォルダーの一覧に戻ってから、マイピクチャフォルダーに移動することにしましょう。「戻る」をクリックします。



フォルダーを移動するには、

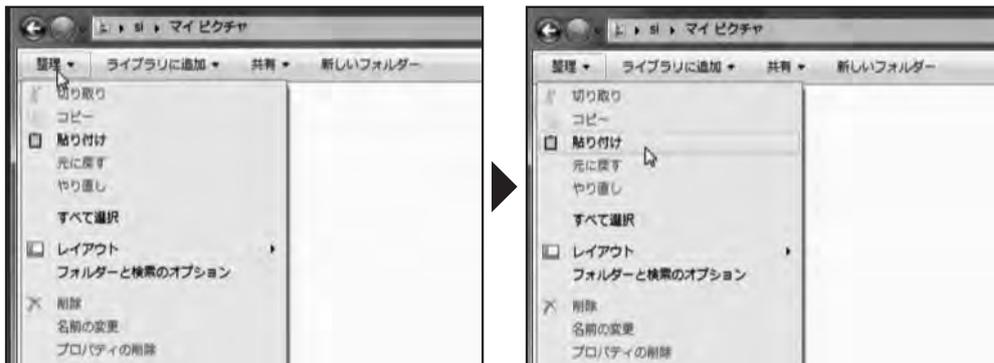
- 上部のアドレスバー
- 左右の矢印のボタン「戻る」「進む」ボタン
- 左側のライブラリから目的のフォルダーを選ぶなどの方法があります。

最初に表示した個人用フォルダーの一覧画面に戻りました。

では、「マイピクチャ」フォルダーをダブルクリックすると、「マイピクチャ」フォルダーに移りました。



「整理」 ボタンをクリックし、「貼り付け」を選びます。



写真のファイルを移動することができました。



■ 「マイドキュメント」と「パブリックのドキュメント」

「マイドキュメント」フォルダーに戻ります。

今度は、左側のライブラリの一覧からフォルダーの移動を試みましょう。「ドキュメント」をクリックします。

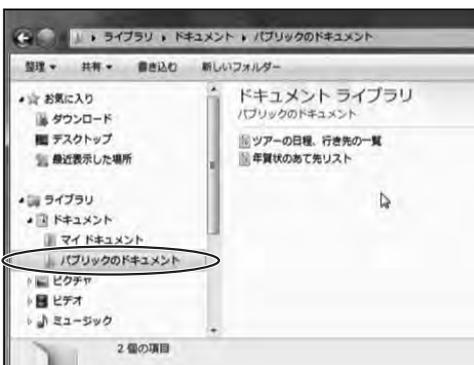
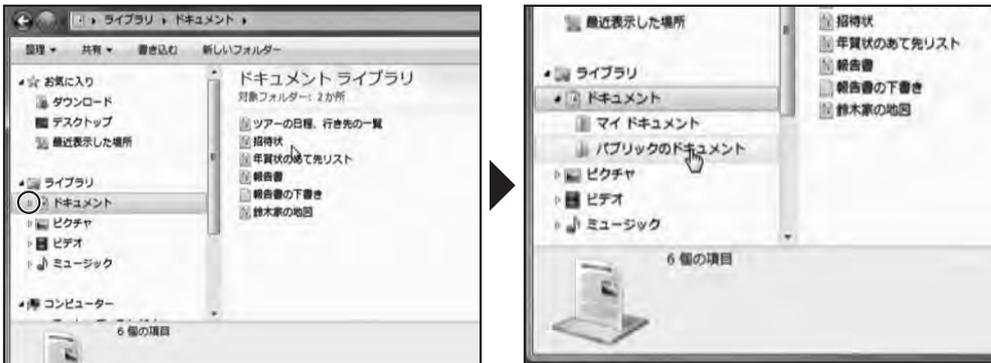


ドキュメントフォルダーに移動しましたが、少し先ほどと様子が異なります。

ドキュメントを確認してみると、右向きの三角が表示されているのでクリックしてみます。

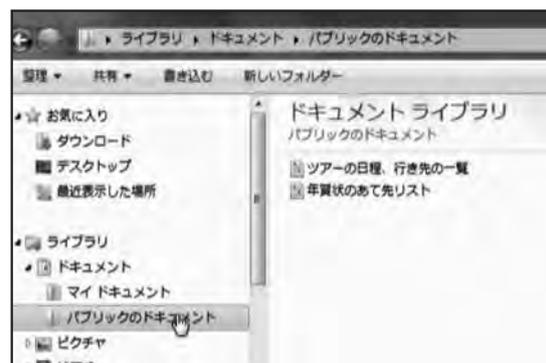
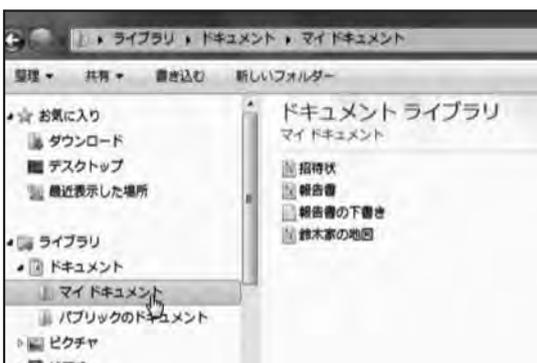
「マイドキュメント」と「パブリックのドキュメント」という2つのフォルダーが隠れていました。

現在ご覧の状態では、これらの2つのフォルダーの中身を同時に表示しているのです。

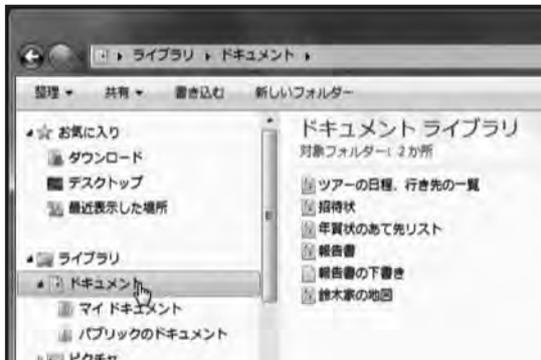


「パブリックのドキュメント」フォルダーとは、ネットワークやこのパソコンの他のユーザーと共有して、共同で利用できるように用意されたフォルダーです。ネットワークに接続された他のパソコンを利用しているユーザーでも開いて使うことが出来るように設定できます。

「マイドキュメント」をクリックすると、マイドキュメント内に保存されたファイルだけが表示され、「パブリックのドキュメント」をクリックすると、パブリックのドキュメント内に保存されたファイルだけが表示されます。



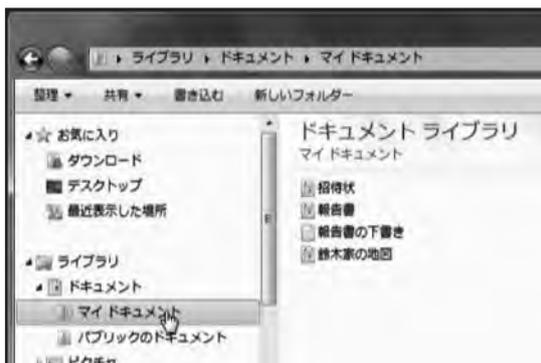
そして「ドキュメント」をクリックすると、両方のフォルダーに保存されたファイルが表示されます。このように、ライブラリは通常の個人用のフォルダーとパブリックのフォルダーのどちらもまとめて表示させるような仕様になっています。



■ファイル表示の変更

「マイドキュメント」をクリックします。

こちらのファイルの表示状態ですが、最初にマイドキュメントを表示したときと、見た目が大きく異なるようです。



最初の表示状態

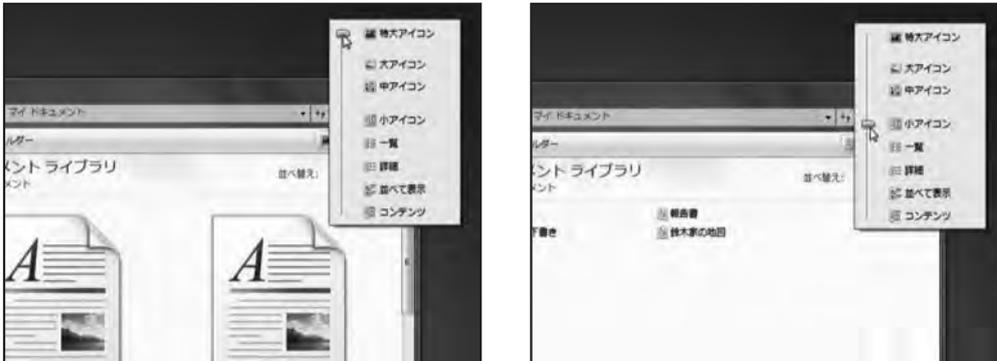
ファイルの表示は柔軟に変更することができます。

ツールバーに表示方法を切り替えるボタンがありますので、下向き三角をクリックします。

現在の表示方法は、「一覧」となっています。



バーがありますので、ドラッグして「特大アイコン」に合わせるとアイコンが特大の表示になり、下にドラッグして、「小アイコン」に合わせると小さなアイコンになります。
好きな大きさに合わせて利用することができます。



■フォルダの新規作成

このマイドキュメントフォルダにはいくつかのファイルがすでに作成してあり、このまま使い続けるとどんどんファイルは増えていきます。

そこで、マイドキュメントの中にさらにフォルダを作りファイルの整理を行ってみましょう。

ここでは、「プライベート」「仕事用」の2つのフォルダを作って、それぞれのファイルを移動しておきたいと思います。



ツールバーで、「新しいフォルダー」をクリックします。

新しいフォルダーが作成されますので、そのまま名前を入力して確定します。



もう1つフォルダーを作成しますので、いったん他の場所をクリックして、フォルダーの選択を外しておきます。

先ほどと同様の手順で、新たにフォルダーを作ります。今回はフォルダーの名前を「プライベート」「仕事用」と設定しました。



これで2つのフォルダーが作成されました。



■ファイルの移動（ドラッグアンドドロップ）

ファイルを移動しましょう。先ほどは「切り取り」と「貼り付け」を利用して移動をしましたが、今度は「ドラッグアンドドロップ」で移動します。

目的のファイルの一部をひっかけるようにドラッグして、まとめて選択します。

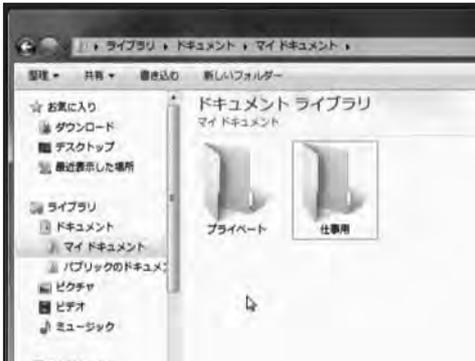
改めてマウスイカーソルを合わせて、そのままフォルダーにドラッグアンドドロップします。

同様の操作を繰り返し、残りのファイルもフォルダーに移動します。



これでファイルを整理することができました。

このように、用途に応じてフォルダーを用意し、整理しておくことが Windows 7 を上手に活用するコツです。



CHAPTER インターネット機能の利用

02

Windows 7でインターネットの機能を利用してみましょう。第2章では、Web ページを見るために利用する Internet Explorer 8、電子メールを送受信するために利用する Windows Live メール、ブログを編集できる Windows Live Writer について学習します。

Internet Explorer 8

■タブ機能

Internet Explorer 8 の特長のひとつは、「タブ機能」です。

タブ機能を利用すると、複数のページの切替をスムーズに行うことができます。

リンクが設定されている箇所で右クリックをします。

表示されたメニューで、「リンクを新しいタブで開く」をクリックします。



ウィンドウ上部にリンク先のページのタブが追加されますので、クリックするとページが開きます。

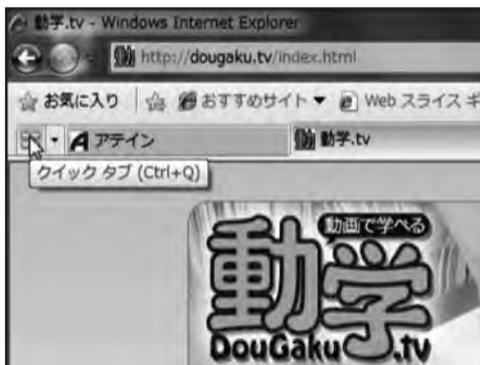
このように、Internet Explorer では「タブ機能」を利用することによって、ひとつのウィンドウ内で複数のページをスムーズに切り替えて閲覧をすることができます。



■クイックタブ機能

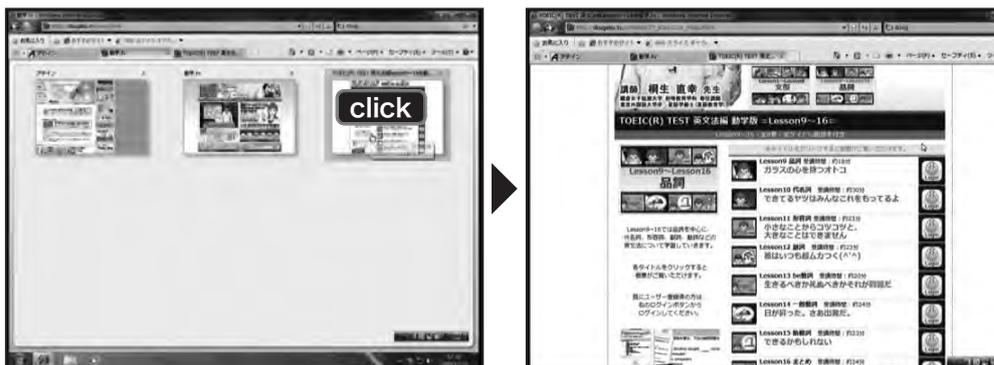
クイックタブの機能も試してみましょう。「クイックタブ機能」を利用すると、開いているページをサムネイル表示し閲覧するページを選ぶことができます。

「クイックタブ」ボタンをクリックします。



現在開いているページがサムネイル表示されました。クイックタブ機能を利用すると、すべてのページをまとめて確認することができますから、閲覧の操作がよりスムーズになります。

一覧で表示されたページのサムネイルをクリックすると、目的のページのタブを開くことができます。

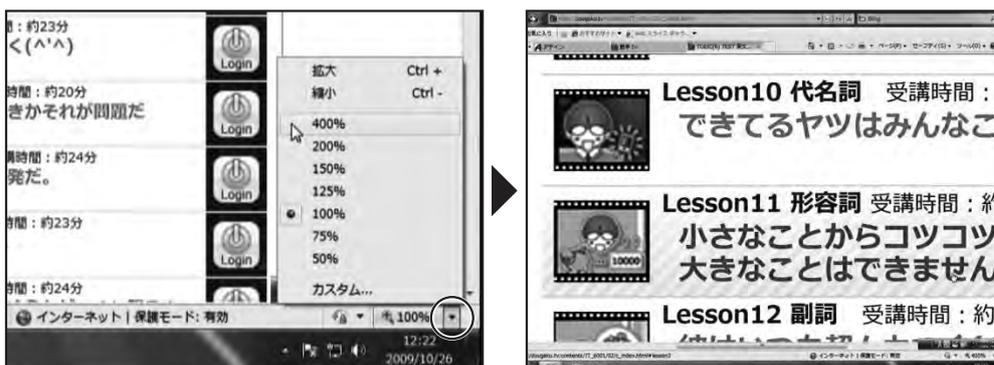


■表示サイズの変更

画面の表示サイズを変更してみましょう。

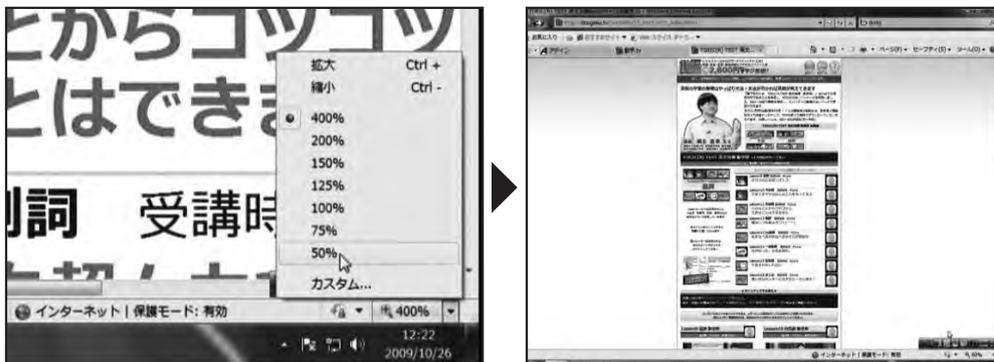
ウィンドウの右下に、虫眼鏡のマークのアイコンがありますので、下向き三角のボタンをクリックしてみましょう。

拡大縮小率のメニューが表示されるので、400% をクリックすると Web ページを 400% の倍率で拡大することができます。



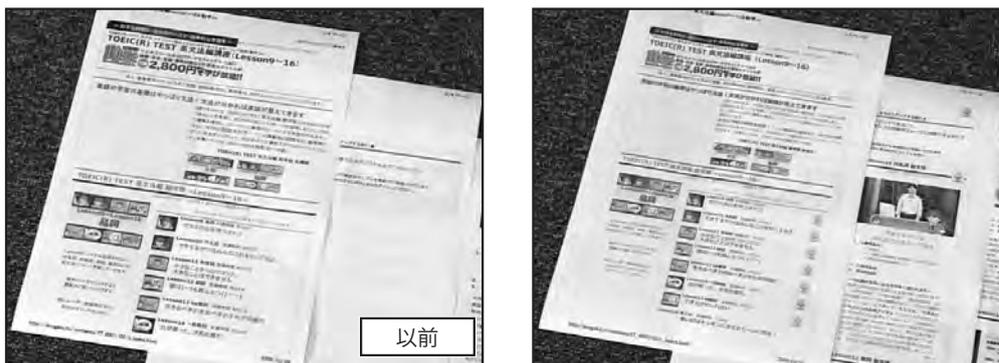
もう一度、下向き三角のボタンをクリックします。

今度は、50% をクリックしてみると、画面が縮小され Web ページを全体的に見られるようになりました。Web サイトに応じて、表示サイズを使い分けると良いでしょう。



■ Web ページの印刷

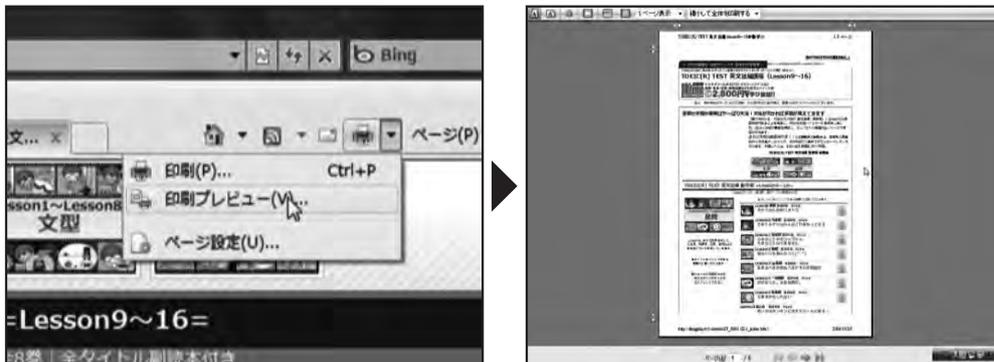
Internet Explorer 8 では、自動的に横幅がページ内に収まるように調整して印刷を行うことができます。以前の環境で Web ページを印刷すると、ページの横幅が 1 ページに収まらず必要以上に印刷枚数を要してしまっことがあると思います。ところが、Internet Explorer 8 を使えば、きれいに用紙サイズに納めて印刷が行われます。



画面で確認してみましょう。

「コマンドバー」の「印刷ボタン」の右側の下向き三角をクリックし、「印刷プレビュー」を選択すると、印刷プレビュー画面が表示されます。

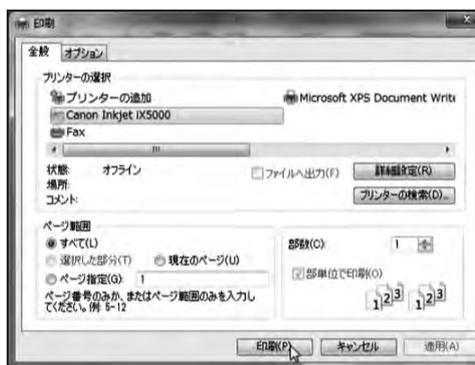
Web ページのコンテンツが、きれいにページの中に収まっていることが分かります。



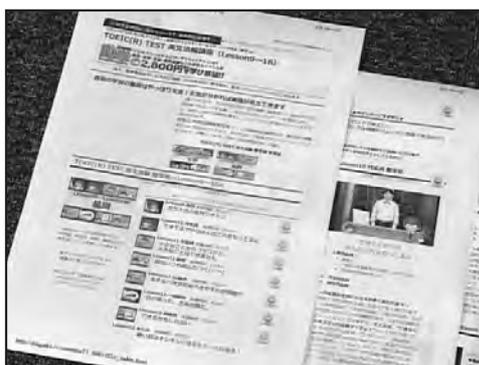
ツールバーの「印刷サイズの変更」メニューを確認すると、「縮小して全体を印刷する」が選択されています。Internet Explorer は、印刷でもサイズを自由に調整することができます。任意のサイズに拡大、あるいは、縮小して印刷を行うことができます。



「ドキュメントの印刷」をクリックして印刷を実行します。



すると、Web ページのコンテンツが用紙からはみ出ることなく、印刷を行うことができました。



Windows Live メール

Windows 7 では「Windows Live メール」が利用できますが、標準では搭載されていません。そこで Windows Live のサイトにアクセスして、「Windows Live おすすめパック」をダウンロードして利用します。その手順や詳細については次の章でご紹介します。この章では、すでにインストール済みの状態から基本的な利用手順について学習します。



■電子メールのアカウント設定

「Windows Live メール」を起動します。

スタートメニューから、「Windows Live メール」をクリックします。



Windows Live メールが起動しますので、電子メールが送受信できるようにアカウントを設定し、「次へ」をクリックします。



- 電子メールアドレス
- パスワード
- 差出人として表示する表示名を入力します。

電子メールサーバーの情報について入力し、「次へ」をクリックします。



・受信メールサーバーの種類を選択

(今回は「POP3」を選択します。その他の種類として「IMAP」「HTTP」がありますが、一般的には「POP3」が多いでしょう。なお、これらの内容については、契約したプロバイダーから設定の情報が送られていますので、その内容に沿って選択してください。)

・受信サーバーやその他の情報

(プロバイダーから送られた設定情報を参照して入力を行います。)

を設定します。

続けて「完了」をクリックします。

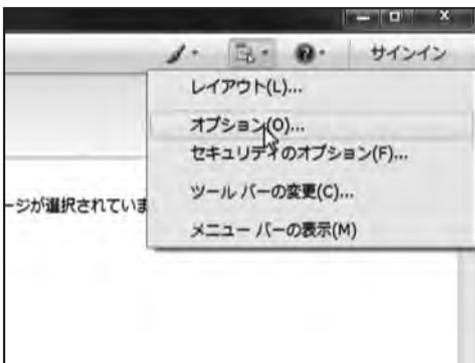
これで、Windows Live メールが利用できるようになりました。



■ Windows Live メールの設定

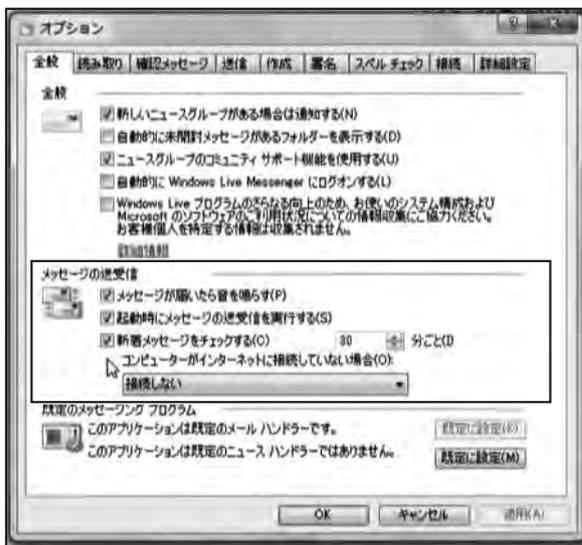
Windows Liveメールの設定を行います。

ツールバー右上の「メニュー」ボタンをクリックし「オプション」を選びます。



全般タブ

「オプション」のダイアログボックスでは、Windows Live メール の動作についての細かな設定を行うことができます。メッセージを送受信するタイミングを「全般タブ」で確認しておきましょう。



「メッセージの送受信」を確認してみると「**新着メッセージをチェックする**」にチェックが入り、「**30分ごと**」と設定されています。つまり自動的に30分ごとにメッセージの送受信が行われることになっているのです。こちらのチェックを外すと、メッセージの送受信が自動では行われず手動で行うことになります。

送信タブ

「メール送信の形式」に注目すると「HTML形式」と「テキスト形式」が選択できるようになっています。今回は、「HTML形式」を選んでおきます。



- **HTML形式**
Web ページのような見た目になるように、様々な装飾を加えたメッセージを作成できます。
- **テキスト形式**
メッセージの装飾が行えない形式

署名タブ

メッセージに付ける署名を作成することができます。

設定したら「OK」をクリックしてオプションダイアログボックスを閉じます。



・「新規作成」をクリック

「署名の編集」の「テキスト」の欄で入力できる状態になりますので、署名を入力します。

・「名前の変更」をクリック

署名の名前が変更できるようになりますので、名前を入力して変更します。

・すべての送信メッセージに署名を追加する チェックを入れます。

■メッセージの新規作成

新しいメッセージを作成します。

「新規作成」ボタンをクリックします。



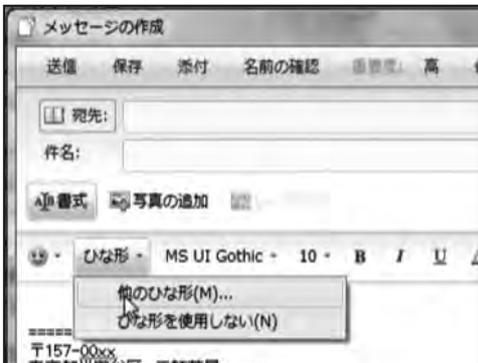
メッセージの作成画面が開きました。

先ほど作成した署名が自動的に追加されています。

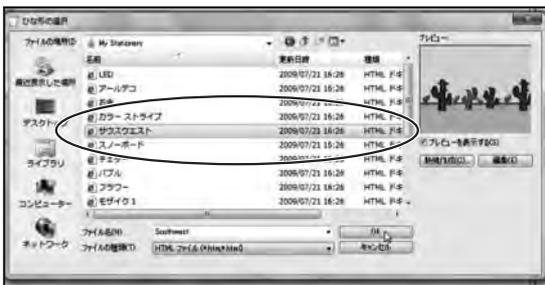


イラストの挿入

Windows Live メールでは、表現力豊かなメールが簡単に作れます。
 ツールバーの「ひな形」をクリックし、「他のひな形」をクリックします。



ひな形の一覧が選べます。
 クリックすると、右側にプレビュー表示されます。ここでは、「サウスウエスト」を選択してみます。
 「OK」をクリックします。



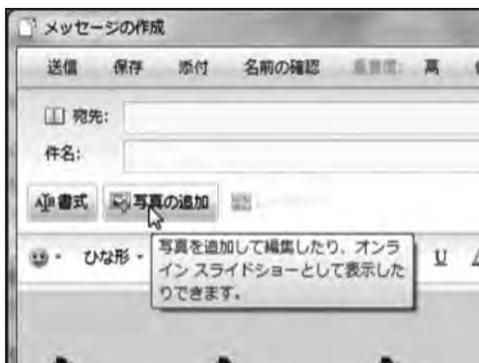
背景にかわいらしいイラストが挿入されました。



写真の挿入

今度は写真を挿入してみます。

「写真の追加」ボタンをクリックします。



「写真の追加」ダイアログボックスが開きますので、写真が保存されているフォルダーを開きます。

今回は、「サンプルピクチャ」のフォルダーを開きます。

追加したい写真を選択したら「追加」をクリックし、「完了」をクリックします。



写真の装飾

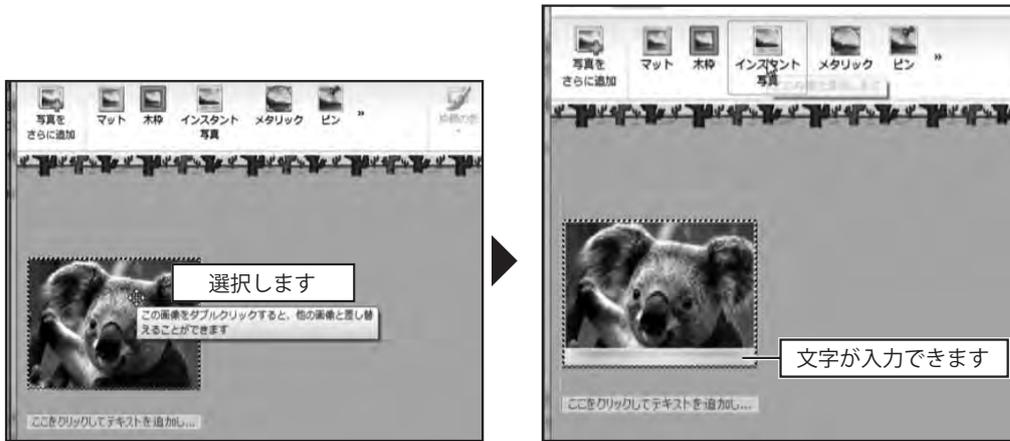
写真が追加されましたので、写真に装飾を加えてみます。

ツールバーで「写真」ボタンが選択されています。下にはツールバーが表示され、写真に対して追加する枠を設定できます。



写真を選びます。ここでは、「インスタント写真」にしてみましょう。

写真に枠が追加され、さらにその下に文字が入力できます。



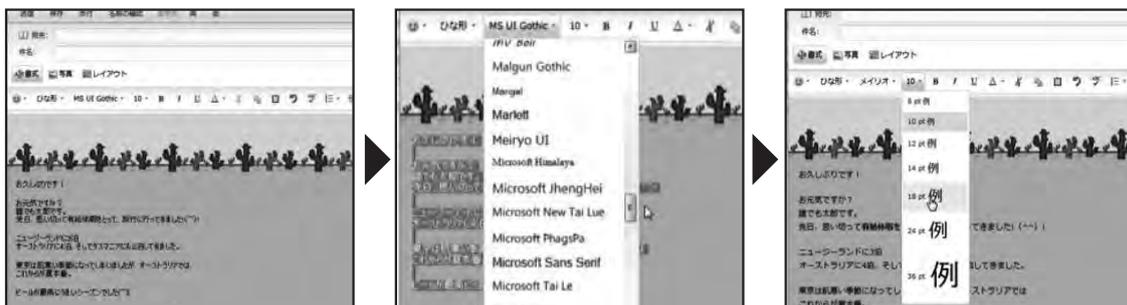
メッセージの入力と設定

「書式」ボタンをクリックして、書式設定のツールバーに戻します。



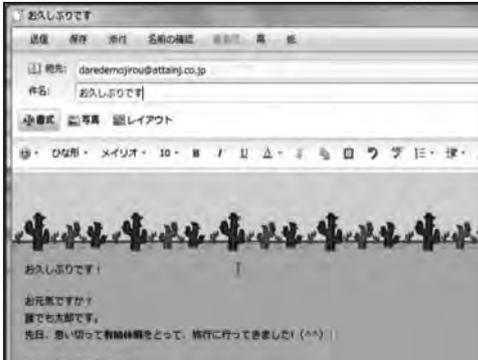
メッセージを入力していきましょう。今回は、このように入力を行いました。

さらに、書式をいくつか設定してみます。



メッセージの送信

メッセージが完了しましたので、「宛先」と「件名」を入力します。
 これで、送信の準備は完了です。「送信」をクリックすれば、メッセージが送信されます。



現在のメッセージの形式は「HTML形式」です。
 確認してみましょう。メニューから「メニューバーの表示」を選び「書式」メニューを開きます。
 「リッチテキスト (HTML)」が選ばれています。そのため、このように装飾を施したメッセージ
 が作成できるのです。



このように装飾を施したメールは、すべての受信者の環境で正しいレイアウトで表示されるわけ
 ではなく、一部の古いメールソフトでは全く対応していない場合もあります。どんな相手にも確
 実にメッセージを送信したい場合は「テキスト形式」のメッセージを利用するようにしましょう。
 その場合は、あらかじめ オプションダイアログボックスの「送信」タブから、「メールの送信形式」
 で「テキスト形式」を選んでおくようにしてください。



Windows Live Writer でブログ編集

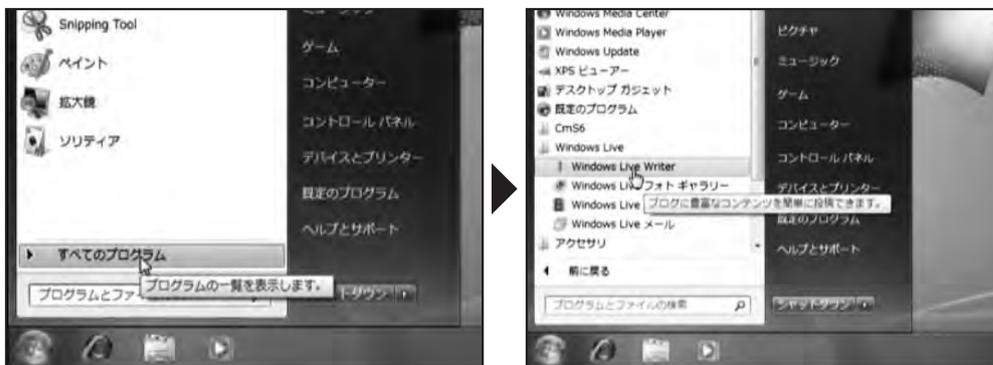
Windows 7 では、「Windows Live Writer」を使って、ブログの編集が行えます。ただし、「Windows Live Writer」は標準では搭載されていないので、Windows Live のサイトにアクセスして「Windows Live おすすめパック」をダウンロードして利用します。その手順や詳細については次の章でご紹介します。ここでは、すでに開設済みのブログを編集するための設定手順を見ていきたいと思います。



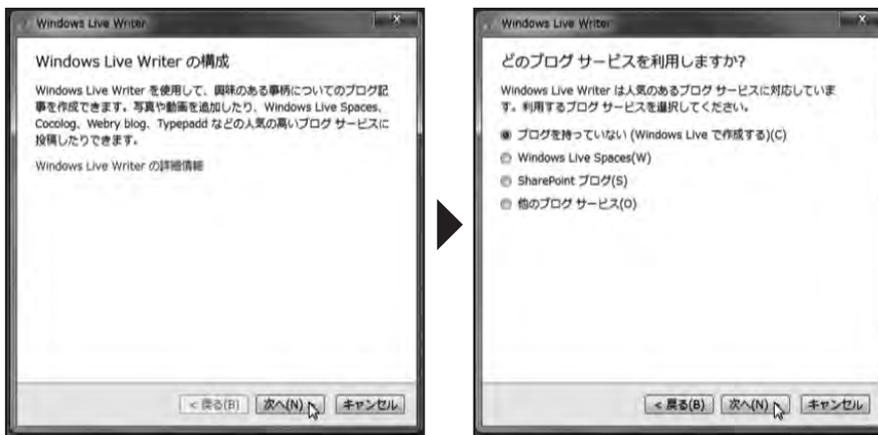
■ Windows Live Writer の設定

スタートメニューから、「すべてのプログラム」を開き「Windows Live」のフォルダーをクリックすると、Windows Live に含まれるソフトの一覧が開きます。

「Windows Live Writer」をクリックしてみましょう。



「Windows Live Writer の構成」が開くので「次へ」をクリックすると「どのブログサービスを利用しますか?」という設定画面が表示されます。



今回は、すでに開設済みのブログサービスを利用しようと思います。

「他のブログサービス」のオプションを選んで「次へ」をクリックします。



- **ブログを持っていない**
まだブログを持っていない方。Windows Live でブログを作成します。
- **他のブログサービス**
すでにブログサービスを利用している方

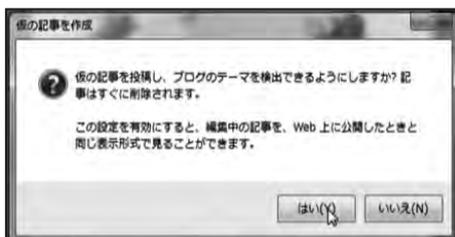
「ブログアカウントの追加」を設定し「次へ」をクリックします。



- **ブログの Web アドレス**
- **ユーザー名**
- **パスワード**
を入力します。

「仮の記事を作成」のダイアログボックスが表示されます。

設定のために、仮の記事を作成するかどうか聞いています。ここでは「はい」をクリックして先に進めてみましょう。



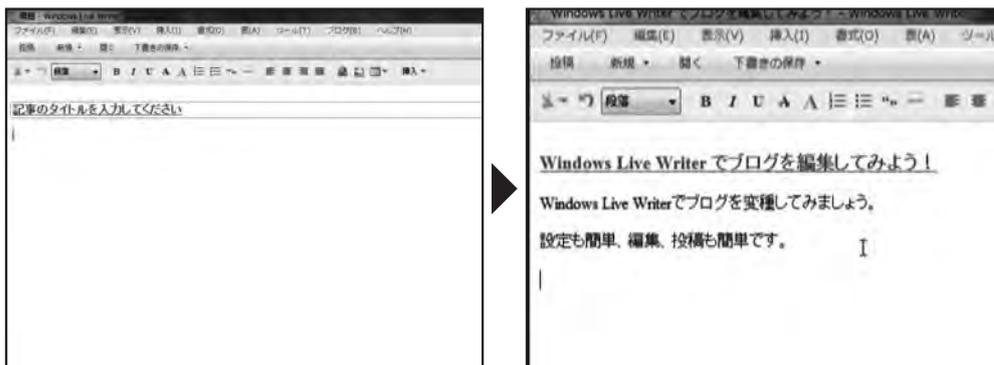
「ブログのニックネーム」を設定します。入力したら、「完了」をクリックします。



■ ブログ記事の入力と写真の挿入

「Windows Live Writer」の編集画面が表示されました。

ブログの記事が入力できるようになっていますので、記事のタイトルと記事の本文を入力します。



写真も挿入してみましょう。

右の「挿入」の一覧から「画像」を選びます。適当な画像を選んで「開く」をクリックします。



■ブログ記事の投稿

画像が挿入できましたので、投稿をしてみましょう。ツールバーから「投稿」をクリックします。



ログインのダイアログボックスが表示されますので、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

「OK」をクリックして投稿を行うと、ブラウザが開きブログが表示されました。

このように、Windows 7ではWindows Live Writerを利用して、ブログを簡単に管理、編集することができます。



CHAPTER マルチメディア機能の利用

03

マルチメディアの機能について見ていきましょう。Windows 7では、音楽を楽しんだり写真やビデオなど、様々なメディアを楽しむことができます。

Windows Media Player でオリジナル CD を作る

■取り込み

Windows Media Player を使って、オリジナルの CD を作ってみましょう。

まずは、Windows Media Player を起動して、パソコンに音楽を取り込みます。

タスクバーから、「Windows Media Player」のボタンをクリックして起動します。



パソコンのドライブに、音楽CDを挿入すると音楽CDの内容を認識して、曲名などの情報が表示されます。

ツールバーから、「CDの取り込み」をクリックします。これで、取り込みが開始されます。



取り込みが全て完了しました。

「**取り込みの状態**」の列に、ライブラリに取り込みが出来たということが表示されています。パソコンから音楽 CD を取り出し、その他の音楽 CD も同様の手順で取り込みを行います。これで何枚かの音楽 CD の取り込みが完了しました。



■オリジナルの再生リストを作成

お気に入りの曲だけを集めて、オリジナルの再生リストを作成してみましょう。

音楽の一覧から「**アルバム**」をクリックします。

取り込んだすべてのアルバムが表示されますので、アルバムをダブルクリックして開いてみましょう。



再生リストを作成します。

「再生」タブを開きます。「**リストの保存**」の右側の矢印をクリックし、「**リストの消去**」をクリックします。



アルバムの曲名のリストから、新しい再生リストに追加したい曲を選びます。

[コントロール] キーを押しながらクリックすると、複数の曲を同時に選択できます。

曲を選択出来たら、右側の「ここに項目をドラッグして再生リストを作成します。」と書かれている欄にドラッグアンドドロップします。



「戻る」ボタンで一つ上の階層に戻り、他のアルバムをダブルクリックで開き、同じ手順で再生リストに曲を追加していきます。再生リストに追加したいすべての曲を選ぶことができました。

リストの上部の「リストの保存」をクリックし、リストの名前を入力します。



■書き込み

名前を確定すると、左の再生リストに保存した再生リストが追加されていることが分かります。

では、この再生リストを CD として書き出してみましょう。

「書き込み」タブを開きます。



空の CD-R をパソコンに挿入します。

左側の再生リストの欄から、今作成した再生リストを書き込みリストの欄にドラッグアンドドロップすると、CD-R のアイコンの横に空き容量が表示されます。今回は、CD-R の容量にきちんと収まっているようです。



最後にこのリストの名前を、CD-R に設定します。

「書き込みリスト」と書かれた部分をクリックし、名前を入力します。



これで書き込む準備ができました。「書き込みの開始」をクリックすると、書き込みが開始されます。

これで、オーディオの CD プレイヤーで再生できるオリジナルの音楽 CD が作成できます。



Windows Live おすすめパック

Windows 7 をより活用するために、「Windows Live おすすめパック」を入手しましょう。

「Windows Live おすすめパック」には、「電子メール」「フォトギャラリー」「ムービーメーカー」プログラムを編集できる「writer」など、様々なソフトが含まれています。

そして、「Windows Live おすすめパック」は無料で手に入れることができます。

別途、ソフトを購入しなくても Windows Live おすすめパックがあれば、さまざまな用途で Windows 7 を活用することができるのです。



■ 「Windows Live おすすめパック」のダウンロード

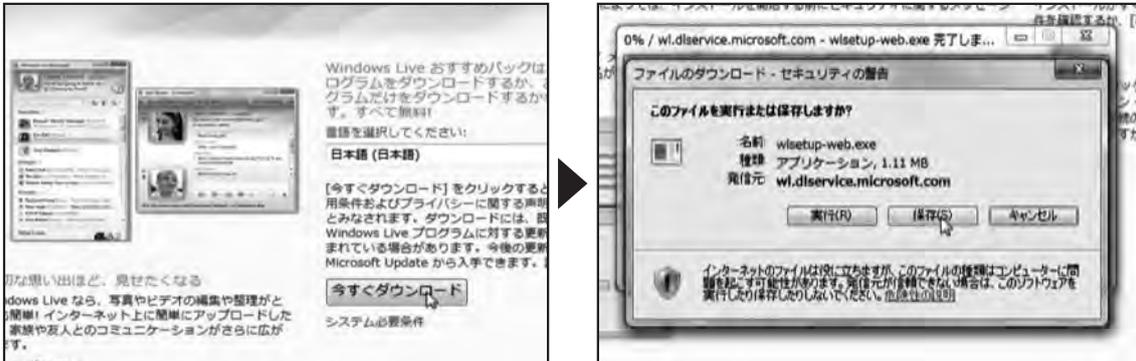
では、早速ダウンロードをしてみましょう。

スタートメニューから、「はじめに」にマウスカーソルを合わせ、タスクの一覧から「Windows Live」をクリックします。



Internet Explorer が起動し、Windows Live のページにアクセスします。画面右に「今すぐダウンロード」のボタンがあるので、こちらをクリックしてダウンロードを行います。

「保存」をクリックして、「ダウンロード」フォルダーにファイルを保存します。



なお、「ダウンロード」フォルダーは、インターネットからファイルをダウンロードするとき利用するために用意されているフォルダーです。

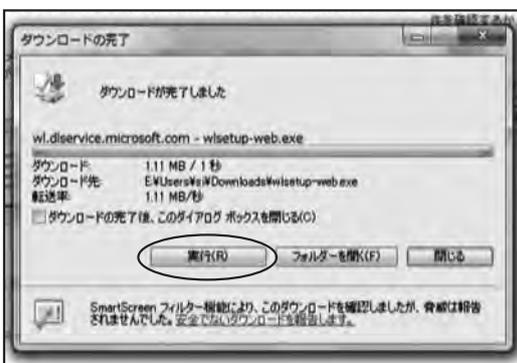
「保存」をクリックします。

ダウンロードが完了しましたら、Internet Explorer は閉じておきます。



■ソフトのインストール

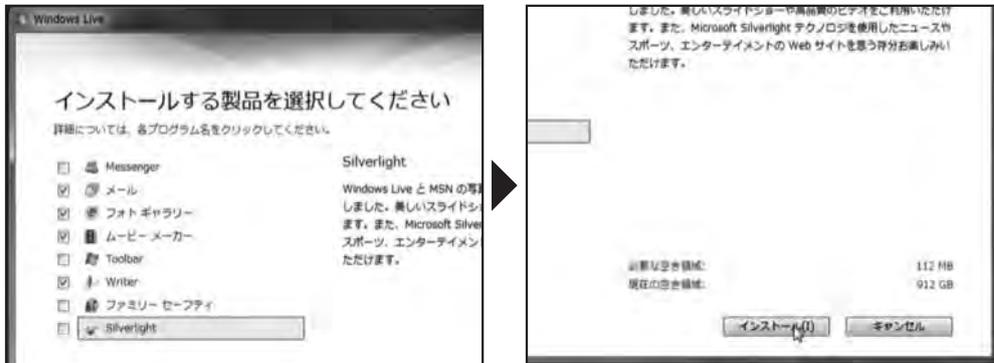
「実行」をクリックすると、インストーラーが開始されます。



おすすめパックの中からインストールしたいソフトを選びます。

すべてをインストールしても良いのですが、今回はこのビデオで紹介する「メール」「フォトギャラリー」「ムービーメーカー」「writer」の4つのソフトを選んでおきたいと思います。

では、「インストール」をクリックして、インストールを実行します。

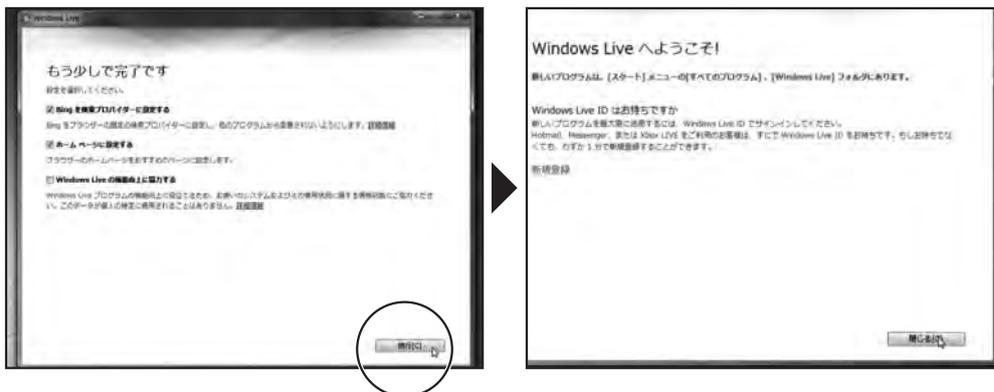


しばらくすると、ご覧のような画面が表示されますので「続行」をクリックします。

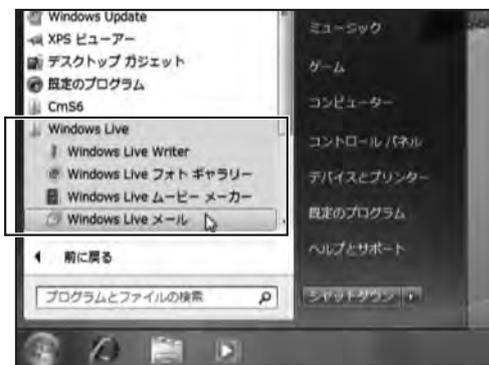
Windows Live おすすめパックを使ってソフトをインストールすることができました。

「閉じる」ボタンをクリックします。

これで、Windows 7 をさらに活用することができます。



なお、インストールしたソフトは、スタートメニューの「すべてのプログラム」から、「Windows Live」フォルダーを開くと、すべて追加されておりここから利用することができます。



Windows Live フォトギャラリー

■写真の取り込み

Windows Live フォトギャラリーを利用して、デジタルカメラで撮影した写真を楽しんでみましょう。

まずは、写真の取り込みから行います。

デジタルカメラをパソコンに接続すると、「自動再生」のダイアログボックスが表示されます。

ここでは、「ピクチャのオプション」から「画像とビデオの読み込み -Windows Live フォトギャラリー使用」を選びます。



「写真とビデオの読み込み」ダイアログボックスが表示されました。

「読み込むアイテムを確認、整理、グループ化する」のオプションを選び、「次へ」をクリックします。

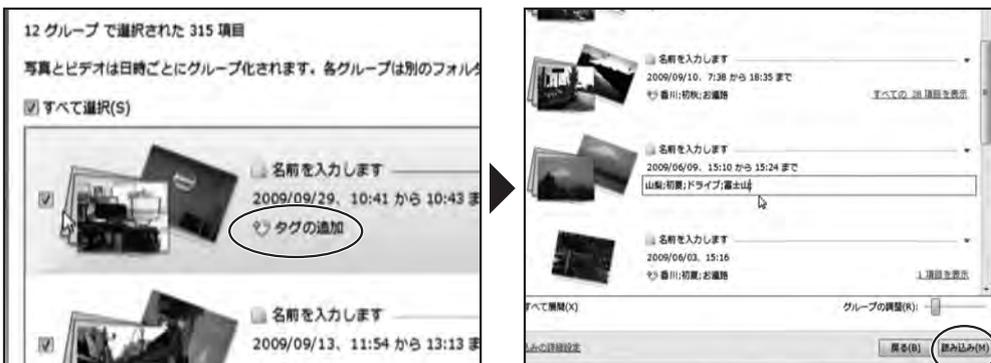


読み込むグループを選択する画面になりました。

撮影した日時ごとにいくつかのグループが表示されています。



読み込むグループにはチェックを入れておきます。「タグの追加」をクリックし、検索用のタグをセミコロンで区切っていくつか入力します。「読み込み」をクリックすると、写真の読み込みが行われます。



■写真データの管理

読み込みが完了しました。

「Windows Live フォトギャラリー」が起動し、読み込んだすべての写真がサムネイルとして表示されています。

Windows Live フォトギャラリーでは、タグを使って簡単に写真を管理することができます。

例えば現在は、すべての写真が表示されています。

左のタグの一覧からその他のタグをクリックすると、読み込み時に指定したタグをもとに、画像の表示を簡単に切り替えることができます。



タグを追加してみましょう。

すでにこれらの写真にはタグが付いていますが、その他にもタグを追加することができます。

「新しいタグの追加」をクリックしてテキストボックスに新しいタグ名を入力し、確定します。同様の手順で、タグを追加していきます。



タグを適用したい写真を、新しいタグ名にドラッグアンドドロップします。



これで、新しいタグ名を写真に適用することができました。

新しく設定したタグを選択してみると、ご覧のようにタグに基づいて画像が表示されます。



■画像の修正

さらに Windows Live フォトギャラリーでは、画像の修正を行うことができます。ギャラリーから画像を選択し、「修正」をクリックします。



修正画面が開きました。

Windows Live フォトギャラリーでは、「自動調整」「露出の調整」「色の調整」「傾きの調整」「写真のトリミング」「詳細の調整」「赤目修正」「白黒」などの処理を行うことができます。

「露出の調整」を試してみましょう。「露出の調整」をクリックします。



「明るさ」「コントラスト」「シャドウ」「ハイライト」を調整することができます。

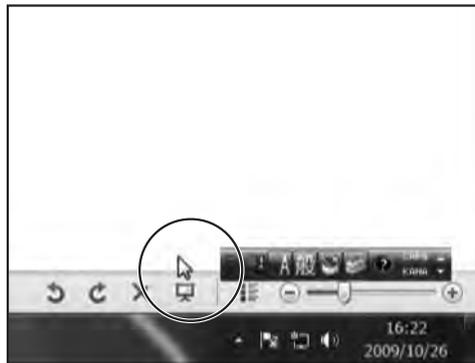
このように Windows Live フォトギャラリーは写真を管理するだけでなく、簡単な修正まで行うことができるようになっているのです。

ギャラリーに戻ります。「ギャラリーに戻る」をクリックします。



■スライドショー

「スライドショー」のボタンをクリックしてみましょう。



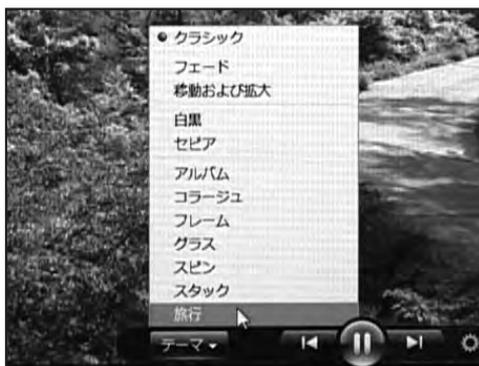
すると、このように画面いっぱいに写真が表示されて、スライドショーが開始されました。



さらに、「スライドショー」のテーマを設定することができます。

画面下部に表示されるツールバーの「テーマ」をクリックし、メニューから好みのテーマを選びます。

選択したテーマに沿ってスライドショーが開始されました。



Windows Live ムービーメーカー

Windows Live ムービーメーカーは、簡単にホームムービーを作成することができます。
スタートメニューから、「すべてのプログラム」「Windows Live」「Windows Live ムービーメーカー」とクリックしていきます。



■素材を開く

「Windows Live ムービーメーカー」が起動しますので、「ビデオおよび写真の追加」をクリックします。



「ビデオおよび写真の追加」ダイアログボックスからホームムービーで利用するビデオや写真を選択し、開きます。



■編集

左の画面でプレビューしながら、取り込んだ素材をドラッグして配置する順序を設定します。



「編集」タブをクリックし、「トリムツール」を選ぶと選択した素材のトリミングが行えます。



その他にも「アニメーション」タブから「切り替え効果」を設定したり、「視覚効果」タブから「特殊効果」を設定することなどができます。



■書き出し

編集が終わったら、書き出しを行います。YouTube や DVD など書き出しを行うことができます。

ここでは、ポータブルデバイス用に書き出しを行ってみましょう。

共有グループのリストから、「ポータブルデバイスまたは携帯電話向け」を選びます。



！ ファイル形式の特性により、すべての機器において利用できるわけではありません。ご利用の機器が WMV 形式の再生に対応しているかは、ご利用の機器のマニュアルをご参照ください。

「ムービーの保存」ダイアログボックスが表示されるので、ムービーの保存先と名前を設定します。

今回は、パソコンに接続したポータブルデバイスに直接書き出してみよう。

ご覧の環境では、このようにコンピューターの一覧にポータブルデバイスがすでに認識されていますので、こちらを開きます。保存先のフォルダーを開き、ファイル名を設定します。「保存」をクリックするとムービーの保存が行われます。



！ 機器により保存先は異なります。詳細はご利用になる機器のマニュアルをご参照ください。

ムービーが作成され、ダイアログボックスが表示されました。
ここでは、「閉じる」をリックします。



ご覧のように、ポータブルデバイスを利用して、作成したムービーを再生し、楽しむことができます。



CHAPTER Windows 7の設定

04

第4章では、Windows 7を使いやすいように設定していきましょう。

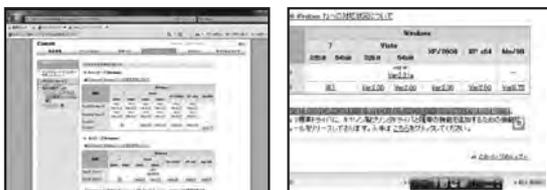
プリンターの設定

プリンターのドライバーは、

- あらかじめ Windows 7 に用意してあるものを使う場合
- 製品に添付してあるドライバーのインストールディスクを用いる場合
- メーカーの Web ページから最新のドライバーをダウンロードして利用する場合

があります。詳細は、それぞれのメーカーの Web ページなどに紹介されていますので、まずはそちらを確認すると良いでしょう。

この章では Windows 7 にあらかじめ用意されているドライバーを利用する手順を学習しましょう。



■ ドライバーのインストール

パソコンとプリンターを接続してプリンターの電源を入れると、Windows 7 はプリンターのモデルを認識し、そのプリンターに適したドライバーのインストールが自動的に開始されます。

プリンターのドライバーのインストールが終了しました。

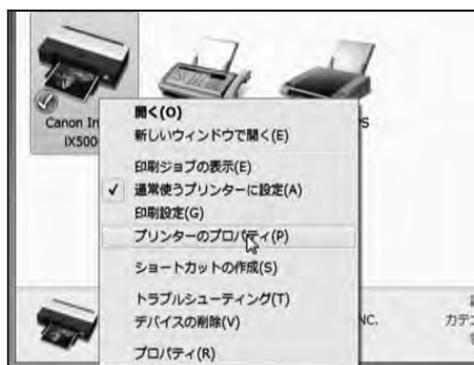


確認してみましょう。スタートメニューをクリックし、「デバイスとプリンター」をクリックします。



「プリンターと FAX」の一覧にプリンターが正しく認識され、利用可能な状態になっていることが分かります。

右クリックしてメニューを開き、「プリンターのプロパティ」を選びます。



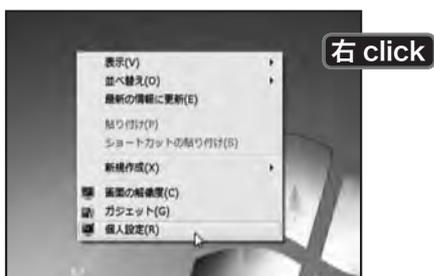
「全般」タブから「テストページの印刷」をクリックすると、テストページの印刷が開始されます。

このように、Windows 7 ではとても簡単にプリンターを追加し、利用できるのです。



デスクトップのカスタマイズ

デスクトップのデザインを好みの見た目に変更してみましょう。
 デスクトップ上で右クリックし、「個人設定」をクリックします。



デスクトップのテーマを選ぶ画面が開きます。

テーマでは、「デスクトップの背景」「ウィンドウの色」「サウンド」「スクリーンセーバー」の組み合わせがまとめてテーマとして保存されています。

「Windows 7」の他に「アーキテクチャ」や「キャラクター」など、様々なテーマが用意されています。



個別に設定するには、下部のアイコンから行います。例えば「デスクトップの背景」を選択すると、デスクトップの背景を変更することができます。テーマで選択したデスクトップの背景を、さらに他のものに変更することができます。



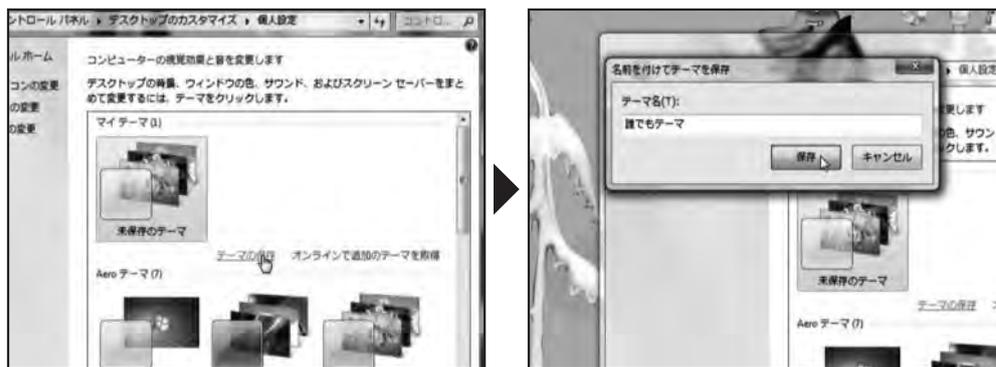
「戻る」 ボタンをクリックし、「ウィンドウの色」 を選択します。

ウィンドウの色を変更することができますので、今回は「ローズピンク」 を選択して「変更の保存」 をクリックします。Windows 7 のデスクトップのデザインを大きく変更することができました。



テーマを保存しておきます。

「テーマの保存」 をクリックし、テーマ名を設定します。「保存」 をクリックします。



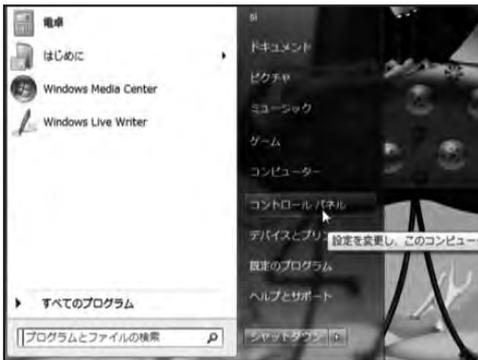
これで保存したテーマが「マイテーマ」として表示され、いつでも利用できるようになりました。



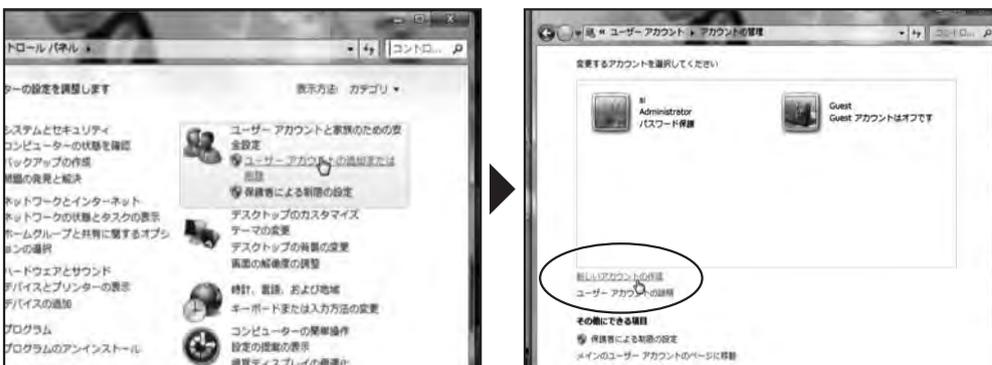
ユーザーの追加と制限の設定

■アカウントの設定

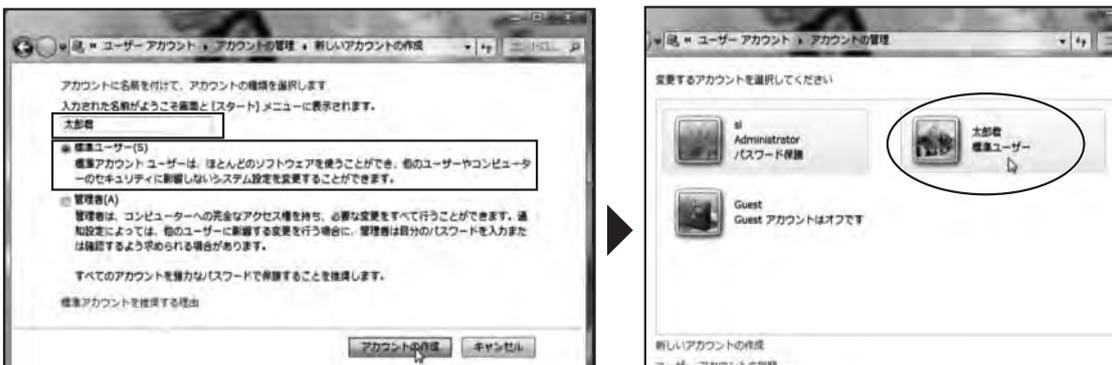
Windows 7 は、複数のユーザーで利用することが可能です。ユーザーを複数設定することで、個別にデスクトップのデザインや保存場所などを設定することができるのです。スタートメニューを開き、「コントロールパネル」をクリックします。



「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」から「ユーザーアカウントの追加または削除」をクリックし、「新しいアカウントの作成」を選択します。



新しいアカウント名を入力します。「標準ユーザー」を選び「アカウントの作成」をクリックします。これで新しいアカウントが作成されました。



保護者による制限の設定

このユーザーには保護者による制限を設定してみましょう。

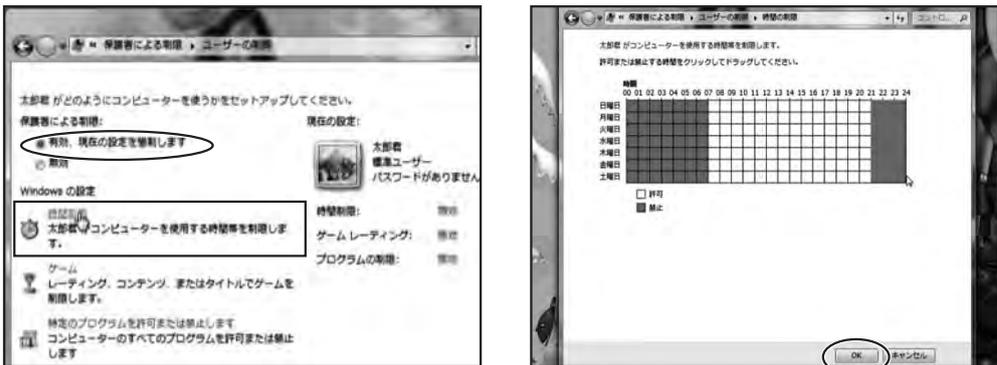
「保護者による制限の設定」をクリックし、今作成したユーザーを選択します。



「保護者による制限」のオプションから「有効」をクリックします。これで、このパソコンを利用する制限を設定できるようになります。

ここでは、パソコンを利用する時間を制限してみましょう。「時間制限」をクリックします。

使用する時間帯を制限します。グラフをドラッグして使用を禁止する時間を選び、「OK」をクリックします。これで、時間の制限を設定することができました。



続けて「OK」をクリックし、ウィンドウの「閉じる」ボタンをクリックします。

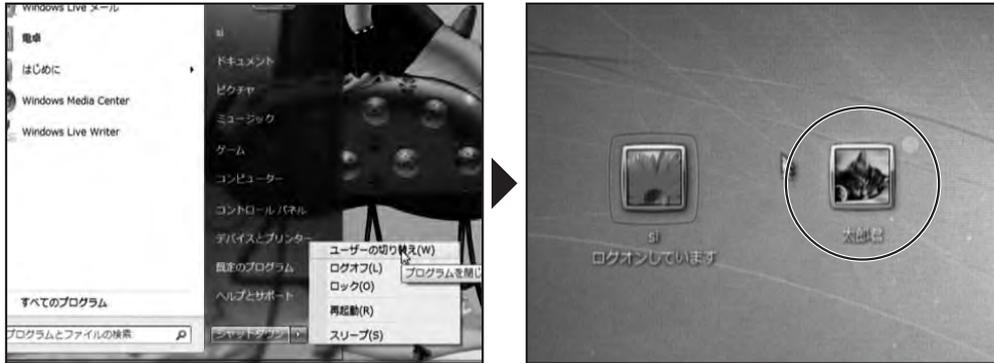


■ユーザーの切り替え

ユーザーが追加されているかを確認してみましょう。

スタートメニューを開き、「シャットダウン」の右側のボタンをクリックします。

表示されたメニューで、「ユーザーの切り替え」を選ぶと、ユーザーの切り替え画面が開きます。先ほど追加したユーザーが表示されています。



ログインすると、このように初期設定のデスクトップが表示されました。

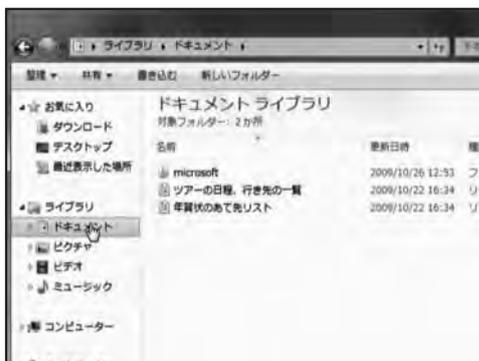
スタートメニューを開き、ユーザーの個人用フォルダーをクリックします。



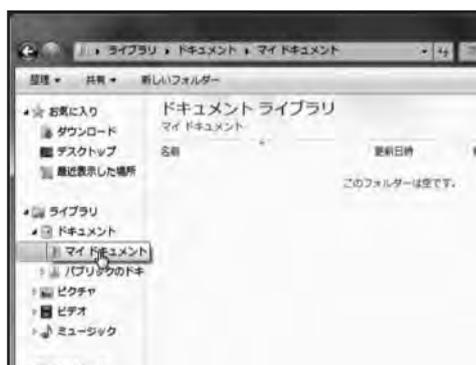
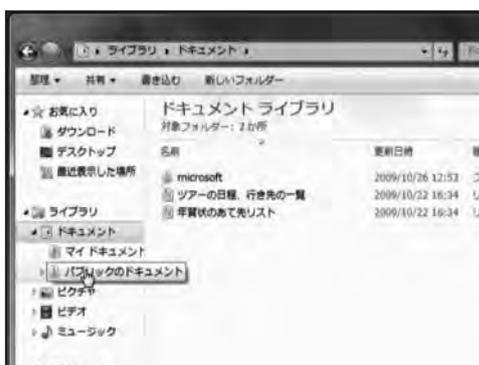
マイドキュメントを開くと、フォルダーの内容は空になっています。



ただし、ライブラリの一覧から「ドキュメント」をクリックして開くと、このようにすでに作成済みのドキュメントが表示されました。



これは、このパソコンの利用者やネットワーク内のユーザーが共有できる「パブリックのドキュメント」にドキュメントが保存されていたため、「マイドキュメント」の内容は空になっています。アカウントを追加することで、使うユーザーごとのデスクトップのカスタマイズやマイドキュメントなどの保存場所を個別に利用することが出来るのです。



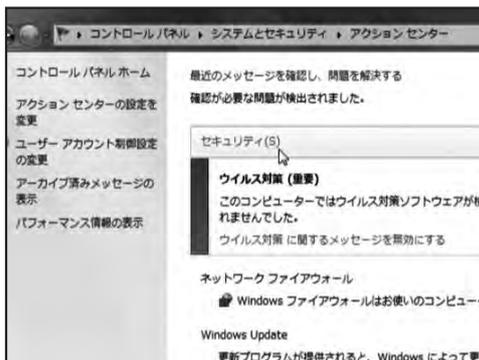
アクションセンターでセキュリティの確認

「アクションセンター」を開き、セキュリティの状態を見てみましょう。

スタートメニューから「コントロールパネル」を開きます。「システムとセキュリティ」を選択し「アクションセンター」をクリックします。

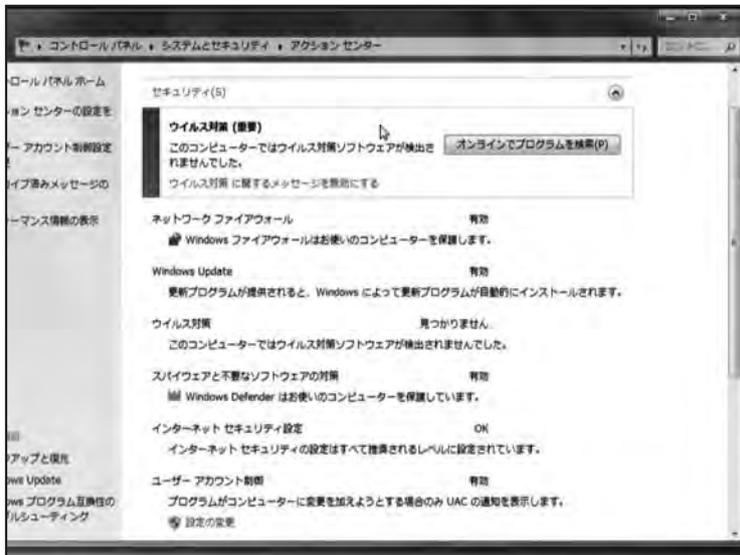


「セキュリティ」のメニューをクリックして開き、内容を確認してみましょう。



様々な項目があります。

ほとんどの項目はすでに「有効」となっており、Windows 7 によってすでに対策が行われていることを示しています。



ネットワーク ファイアウォール

「Windows ファイアウォール」により保護されています。

Windows Update

Windows Update は自動的に行われ、更新プログラムが提供されるようになっています。更新プログラムには、新しく見つかったセキュリティのリスクについての対処プログラムが含まれますので、セキュリティの面を考慮すると Windows Update は常に最新の状態で更新しておくことが望まれます。

ウイルス対策

「見つかりません」と表示されています。

その結果、上部には「ウイルス対策 (重要)」と表示され、早急に何らかのウイルス対策ソフトウェアをインストールすることが望まれています。



Windows 7 では不正な侵入やスパイウェアなどの問題については、あらかじめ対処できるようにセキュリティの機能が用意されていますが、ウイルス対策については初期設定ではソフトウェアが用意されていません。ですから、何らかのウイルス対策ソフトウェアは個別に購入して、早急にインストールすることが望まれます。

Windows 7 を安全に利用するために、必ずウイルス対策のソフトウェアはインストールしておくようにしましょう。

スパイウェアと不要なソフトウェアの対策

「Windows Defender」により、保護が行われています。

トレーニング BOOK
誰でもわかる Windows 7

2010 年発行

制作・販売元 アテイン株式会社

〒 101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-19-8 酒井ビル 4F

TEL.03-3255-4721 FAX.03-3255-5680

E-mail info@attainj.co.jp

<http://www.attainj.co.jp/>

© 2010 Attain Corporation

●本書の一部または全部について、個人で使用する場合を除き、著作権上アテイン株式会社の承諾を得ずに無断で複写・複製・データ化することは禁じられております。

※パソコンの画面を撮影しているため、一部小さな文字等の表示がみにくくなっている場合があります。

※ Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。その他、記載されている会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。